

令和3年度 京田辺市男女共同参画審議会（第1回）議事録

（1）令和2年度男女共同参画年次報告について

委員：「育児参加のための休暇育児休暇」というのは、どのような内容か。

委員：その休暇は有給か。何日間あるのか。

事務局：有給で、5日間ある。年齢までは今わからないが、保育所へ迎えに行くときや病気
のときに見てあげる、そういうときに取れる休暇になると思う。

委員：育児の範囲というのは、何歳までか。

事務局：申し訳ないが、今資料を持ち合わせていない。

委員：コロナのために活動が減るのは理解できるが、相談が減るといのは、相談でき
る場所が休みだったから減ったのか。夫婦関係などの悩みがコロナで減ったとい
うのは興味深い。苦しみがあるときにそれ以上の苦しみが与えられたら、元の苦
しみが少なくなるのかもしれないと思った。

事務局：女性交流支援ルームについては、3月・4月は休室したため、一般相談は、面談で
お話ししたいという方はできなかった。専門相談と法律相談は、コロナ対策を講
じながら対面でさせてもらっていた。コロナで懸念されるのは、テレワークされ
ている配偶者や子どもさんが家にいるということで、電話するのを躊躇されたとい
うことも考えられる。

委員：みんなが家にいるからストレスが溜まって問題が多くなったと言われているが、
家にいるから電話ができにくくなった。

事務局：内閣府ではDV相談プラスというのを拡大されて、若い人なども相談してもらえ
るようにメールやチャット、電話も24時間だったり、そういうところもあるので
選択肢は広がっていると思う。

会長：全国的には暴力や虐待が増えていると言われているが、いろいろと手段も増えて
いるということだ。また、地方と全国では違うのかもしれない。

委員：実績評価と配慮度評価の違いを教えてください。

事務局：実績評価は、基本的には各事業で設定している目標に対して到達しているかどう
か、上回っていればA、ほぼ目標水準どおりであればB、下回っていればCの3段
階で付けている。配慮度評価は、その事業をやるときに男女共同参画の視点での
配慮項目を6項目挙げており、○の付いた項目数によって、5個・6個付けばA、
3個・4個はB、2個以下はCという3段階の評価になっている。それを、それぞ
れ各事業の担当課が付けてきている。

委員：ずっと見ていくと配慮度評価のほうが高くなっているものが多い。配慮というの
は男女共同参画に対してのということ、目的が一つに絞られて範囲が狭く評価
されるので、評価が良くなっているのではないか。

事務局：配慮度評価は、男女共同参画の視点でそれぞれの事業に取り組むことができたか
という評価である。実績評価というのはそれぞれの事業に、例えば100名以上参

加するとか、実施率を何%以上にするというような数値目標、あるいは「実施」という目標もあるが、そういう目標が達成できたかどうかで評価している。ここに挙げている事業は男女共同参画に寄与する事業ばかりではあるが、それが実際できたかどうか、参加者が目標よりも多かったかどうかというようなものを評価している。一概に広いとか狭いとかいうことではない。

委員：目標値を設定したときは何もなかったが、去年から今年にかけてコロナのことでさまざまな事業が中止になったり人数制限したりという中で、数値目標に達しなかったということでBになっているケースがあると思う。こんなに備考欄に書き込んであるケースは今までなかったと思うが、今回はコロナでという記載がたくさんある。そういったことで今回は実績評価よりも配慮度評価が上回ったのではないか。

事務局：例えばコロナの関係で定員を半分にしなければならぬとすると、100人の参加者を目標としていたものが50人の定員になれば50人を超えることはなくなってしまふわけなので、単純に考えるとC評価になってしまう。

委員：その場合は50人を100%にして計算しなければおかしい。

事務局：単純に数字だけで評価してしまうとCになるので、そこをコロナ対策をした上で50人に達したということであれば、Bになっている可能性はある。

委員：配慮度評価はAが多いのに、Aにはならなかったのか。

事務局：実績評価は、単純に数値目標を下回っている場合はCとなることを、「評価にあたり特筆すべき点」の記載内容を加味してBとしている場合もある。

会長：目標数値そのものを見直した上で評価するのが望ましいが、なかなか年度内にそこまでするのは難しいと思うので、備考に書き込んであるところを見ながら考えていただければと思う。目標を見直していればAだったものもあると思うが、それは難しかったということで、こういう形になると思う。

委員：学校でやる意識啓発の事業はとても効果が期待できる。子どもたちに授業をするのは毎年3校ということだが、ぜひ継続していただきたい。しかも、多角的にいろいろなことをやっているのは評価できる。同志社女子大学でデートDVの防止啓発事業をしていただいて、私のゼミ生たちもすごく意識が高まって勉強になった。ありがとうございました。

委員：こういった授業を委員が参観するという事は考えられないか。子どもたちの発達段階に応じてこういうことを学んでいるということ、例えば指導案のようなものでもよいが、共有できるとよい。委員が授業を見に行くとなると先生は緊張されるだろうし、参観はすぐに実現できないかもしれないが、子どもの反応をわれわれが知ることが大事だと思う。

会長：こういう行事があるという案内をいただけるとありがたい。年間でこういう行事があるということ、共有して、もし行けるなら参加する。いきなり行くのではなくて、事務局から事前に言うておいていただくようにしてはどうか。

事務局：今年度の事業はほとんど日程が決まりつつあるので、みなさんにご案内させていただいて、これを見学したいというご連絡をいただいとりまとめした上で、そ

の人数を学校にお願いするという形でさせていただければと思う。

委員：子どもたちがどんなふうに思っているか知りたい。子どもを通して、そのバックの家庭もわかる可能性もある。相手は間違いなく身構えられるだろうと思うが。

委員：われわれは指導者ではない。ただ、子どもがどんな反応をしたのかを見て、そこからまた指導する内容を変えていかないと、ただやっただけではもったいない。

事務局：一般の方が参加ができる事業についても、今はコロナの関係があり、事前に申込して参加していただくようにしていただけたらと思う。それ以外の事業も、あまり一度にたくさん来られても学校も困られると思うので調整をさせていただきたい。いったんはみなさんにご案内させていただいて、ご希望の方についてはご連絡いただければ、こちらのほうでできるようにさせていただきたい。

会長：事務局にはお手数をおかけするが、そのようにお願いしたい。委員のみなさんがそういうところに行って実際に見ると、感覚がまた違ってくると思う。現場のほうでも外部からの目が入るのはよいことだと思うし、行ったら何らかの感想などをフィードバックすることが重要だと思う。みなさんとても熱心でいらして、嬉しい。

委員：子どもへの指導内容は学校に任せているのか、こちらから市として重点的にやってほしい内容を伝えているのか。

事務局：男女共同参画に関わるテーマを5つほど学校に提示し、このテーマでこの学年を対象にやりたいという希望をいただいて、して下さる講師を探す。講師が決まったら、講師から流れの案をいただいて、それを学校とやりとりしながら内容を決める。講師は、例えばキャリア教育やジェンダー教育で普段セミナーをされているような先生にお願いをしている。学校の先生がやるわけではなく、外部の講師を依頼してやっている。

委員：外部の方が、子どもの前で話をされるということか。

事務局：そうである。学校でされている教育課程との調整があるので、そこは間に入って調整をさせていただく。

委員：スマホなどの扱いを子どもに早いうちから教えるということで、山城管内の希望された学校にわれわれ人権擁護委員と一緒にNTTの専門の方が行って、スライドなどを交えて話をされるという、3年ほど前から始まった事業だが、それと似たようなことかと思う。

委員：すり合わせをしてやるということだが、学年によって全然違うものか。

事務局：同じテーマでも理解度が変わってくるので、実際にその学年を担当されている先生と調整をしながら、レベルを合わせていく。

委員：事務局としてこういうことは入れてほしいというところは、そのように持っていかれるのか。

事務局：テーマはこちらが提示しているものから選んでこられるので、そこは問題ない。

委員：こういうテーマを出しているのを見れば私たちも納得できるのではないか。

事務局：テーマは例えば、男の子だから女の子だからというのではなくみんなが仲良くできるようなコミュニケーションをどうしたらよいかというものであったり、将来

的に仕事に就くときに男性だからこの仕事・女性だからこの仕事というのではなく、自分が好きな仕事をしてよいか、あと自分らしい生き方をするにはどうしていったらよいかということ、講師と学校の先生と、われわれも入って内容を決めているというイメージを持っていただければよいと思う。5つのテーマを説明付きで各学校に投げかけて、その中から選んでもらっている。

委員：子どもからの反応というか、アンケートは集めているのか。

事務局：集めている。担任の先生からもアンケートを書いていただき、概ね評価してもらっている。中にはわかりにくかったという子どももいるが、学年に応じて講師の先生もうまく工夫して授業をしていただいております、概ね好評である。

委員：評価するときには定量、数字で何%とかいうほうがわかりやすいのだが、定性と定量をバランスよくやるという話が前にも出ていたかと思う。定性がうまくいっているのに数字が届かなかったというときに、評価を落としてよいのかどうか。

会長：目標はこれを見ると大体定量で設定されていて、多くの場合は量で評価されている。だから、このコロナの関係でBになってしまったということがあると思う。なので、学校の授業でこういうのをやりましたというだけでなく、やった結果どういう反応があったかという質的な部分の評価がどこかに記述されているとよい。今後の検討課題かと思う。

事務局：各事業ごとの調査票には詳しく書く欄があり、こういう反応があつてよかったとか、アンケート結果がこうだったからよかったと、書いてもらっている。一覧表にしたときにその部分が載ってこないのが、見え方としてはAかBかというだけになってしまっているが、実際にはそういう評価のしかたはしている。第3次計画では、参加人数が何人というのではなく、アンケートで「よかった」と答えた方が何%になるというように、目標の立て方自体を変え、なるべく質を測れるような目標設定を心がけた。第2次計画は目標の立て方自体をこのような形にしているので、今年度が最後になるが、こういう評価になると思う。

会長：実質的には質のところもきちんと見ているが、一覧表にするとどう書くかが難しく、見えなくなっているということである。

事務局：第3次計画では目標を設定していない事業と目標を設定している事業に分けているので、そのあたりの評価の出し方については考えていかなければならないと思う。

委員：表の中で、事業名の前に付いているマークの違いは何か。

事務局：★が改訂のときに新規事業として入れた事業、◎が改訂のときに拡充した事業、○が改訂前から引き続いての継続事業である。

会長：年次報告書の内容についてはいかがか。ご指摘のとおり質的な部分での評価が載っていないが、実績評価には勘案されているのか。

事務局：「評価にあたり特筆すべき点」という欄があり、そこにプラス評価になりうるものがあれば書いてもらい、それを加味した上で評価を付けてもらうことになっている。その欄に記載があるものについては、評価が1段階上がっている場合もある。

会長：数字だけではなく質的な部分も含めての評価を行っているということだが。

事務局：例えば 15 ページ No. 4 に「男女共同参画推進のための講座の開催」というのがあり、年 1 回という目標が書いてあるが、備考欄のところには参加者アンケートで満足度が非常に高かったとなっている。実施をしたという意味では B だと思うが、満足度が非常に高かったという意味で A になっている。例として見ていただければと思う。

会長：では、年次報告書をこの内容で公表するという事で、よろしいか。

一 同：異議なし。

(2) 第 2 次京田辺市男女共同参画計画（改訂版）令和 2 年度事業実施状況及び年次評価について

(質疑等なし)

会長：資料 3 の年次評価について、公表するという事でよろしいか。

一 同：異議なし。

(3) 第 2 次京田辺市男女共同参画計画の最終評価について

委員：内容に関しては異存ないが、文章の最後がすべて「求められます」になっているようなので、もう少し前向きな、やるんだというような表現はないか。

委員：「推進していくことが求められます」ではなく、「推進していきます」ではどうか。

事務局：市が主語であればもちろん「推進していきます」となるのだが、審議会が出すものなので、このような表現になってしまっている。

委員：「必要です」に変えればよいのではないか。「求められます」というのは、反省か、今後のことか。

事務局：今後のことである。

委員：「今後こういうことが必要です」でよいのではないか。

委員：「今後一層」とか「一層求められます」というのはどうか。あまり変わらないか。

委員：少し前向きな感じがする。

委員：意見ではないが、目標が全部達成されていたらおもしろくない。それだと今度、課題がないということなので、目標が達成されていないほうがよいと思った。今回、割と目標が達成されている。そうすると結局、課題が少なくなる。だから、目標を高くする意義がわかった。

事務局：最初から高くするのではなく、現実も見ながら目標を設定している。基本目標 1 の「全審議会等における女性委員の割合」は 33% という目標がよいのかと言うと、男女が半々くらいいけば 50% にしなければいけないところだが、次の計画でも 40% にしている。

委員：その目標もまた達成されるのではないか。45 とか 50 になるかもしれない。5 年後

か。

事務局：10年後である。

委員：10年後なら絶対達成する。もっと高くすればよかった。

事務局：今の段階では難しいと思う。

委員：目標というのは高くするべきだと思った。超えていたら全然意味がない。

委員：女性がいない審議会が15もある。これを1人でも入ってもらうように努力するほうが、数字としては見えてくるように思う。

委員：男性も、男女共同参画社会をつくっていかなければならないということは、啓発しなくても皆よくわかっている。でも実際、女性の進出を認められないのではと聞くと、認められないと言う。そここのところがすごく問題だと思う。

委員：企業でも、女性の役員を数字合わせのために外部から入れても、結果的にはその人は役員会に出ても発言権がないというようなことがある。だからもっとしっかりと、そのへんのことを考えた中でやっていかなければならない。女性を上にするというのはトップの考え方ひとつだと思う。トップの考え方次第で、ここは女性を上手に使っているというような営業所はある。

委員：外国、外部の流れに日本は巻き込まれると思う。物言う株主も増えている。

委員：結果を見ていると、意識と行動でかなり差がある。意識ができたということで評価が上がっているけれども、実態のほうで数字が下がってくるということがあって、かなり反省する部分がある。評価のところ、事務局がマニュアルを示して各担当課が評価してくると思うが、私の経験で言うとやはり実績を上げたいから一つ上のほうの評価を付けてしまう。それに対して事務局がどうこう言うのは難しいと思うが、実質的な評価とするための何か工夫はあるか。それともう一点、女性交流支援ルームの事業についての評価はされているが、ここについては情報発信拠点として、交流拠点として、大きな役割を果たしてきているので、そのへんの評価なり在り方というのを議論されたことはあるか。例えばアンケートの中に、女性交流支援ルームをどう思うかというような項目はあったか。

事務局：各事業をするときには、女性交流支援ルームを知っているかというアンケートを入れているが、まだまだ知らない人が多い。今までと同じような事業をしていると同じ方しか参加がないので、ポケット講座の中身を工夫して、例えば参加者の方のカラー、色を考えてみませんかという講座をさせてもらった。すると若い方の申込が非常に多くあって、その方々は女性交流支援ルームを事業で知ったということなので、やはり若い人の関心が高いような事業をこの女性交流支援ルームを使ってやっていく必要があると感じている。そういったところで知名度を上げ、参加した人が、友だちで悩んでいる人にこういう所があると伝えてもらうことによってルームの存在を知ってもらい、相談した人の割合も上がっていく。そういう形を求めていきたい。あと、先におっしゃっていただいた部分は、委員がおっしゃっていただいたのと少し違って、各担当課は低い評価をしてくる。結構数字だけ見てしまっていて、Cがたくさん出てくる。それを逆に、われわれのほうから、こういう視点をしたのではないかと、「特筆すべき点」が何かないかということ

で、Bに上げる。BからAに上げるというのはなかなかないが、そういう働きかけをしている。

委員：それはよいことだ。

委員：ポケットのハード面のことだが、やはり狭い。何かやるときに、同じ建物の中で他に会場があればよいのだが、今回のようにコロナで7、8人いたらもうだめという状態は、もう少し広い所にできないものか。

委員：事業によって、中央公民館などに移動してすればよい。

事務局：コロナの関係があって定員を半分以下にしようとしているので、女性交流支援ルームは小さいので少ない人数でさせてもらっているのが現状である。ルームだけではなくて中央公民館を借りるなどして、事業を広げていっている。狭いというのは本当に課題となっているので、第3次計画の中でも、JR京田辺・近鉄新田辺駅周辺での複合施設を計画している中に女性交流支援ルーム、名称は男女共同参画センターという形にするのかそこは議論ということになるが、そちらに施設を設けられるように検討を進めさせてもらっている。

委員：資料4の2ページの中に「できる」という言葉が何か所か出てくるが、「子どもができる」というのは、私もそういう言葉を使うけれども、いちばん上には「大切にできる」というのがあって、私の感覚では「仕事が上手にできた」とかそういうのが「できる」であって、「子どもができる」が一般的というのであればそれで結構だが、違和感があった。

委員：「子どもができた」というのは、できてすぐということか、子どもがいてもという意味か。

委員：それはずっとであろう。できたすぐであれば「出産後」と書けるが、それだと範囲が狭くなる。

事務局：第2次計画の目標設定項目の表現になっていて、第2次計画自体は終わったのでこのままにしておきたいと思う。第3次計画の目標設定ではこの言葉を使っていない。「女性はずっと職業をもつほうがよい」となっている。

会長：今回は、計画でずっと使っている言葉なのでこのままということにしたい。他にご意見がなければ、こういう形で公表するというところでよろしいか。

一 同：異議なし。

(以上)